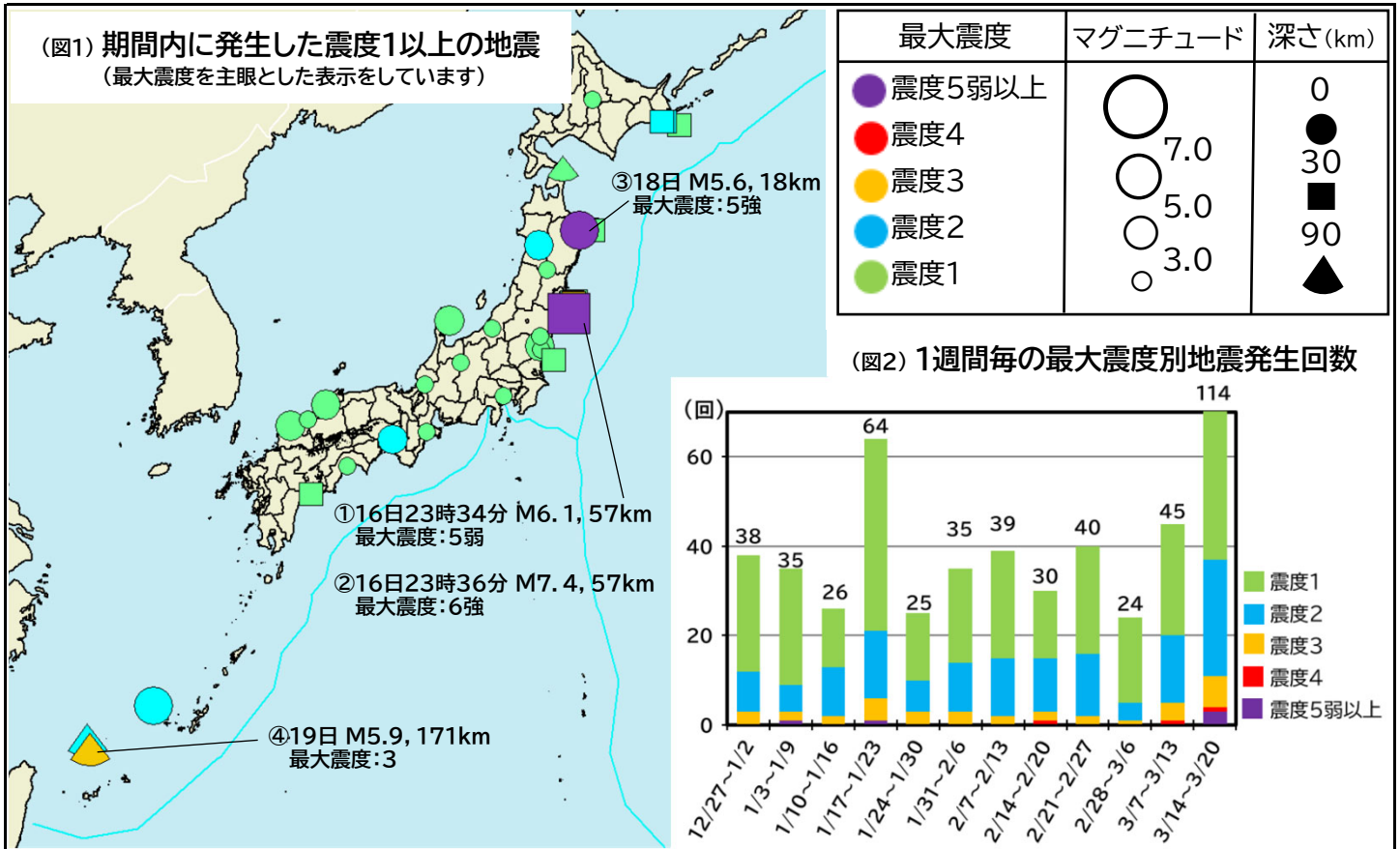


この期間の最大震度は6強（福島県沖）

本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの（出典：気象庁震度データベース/地震情報）

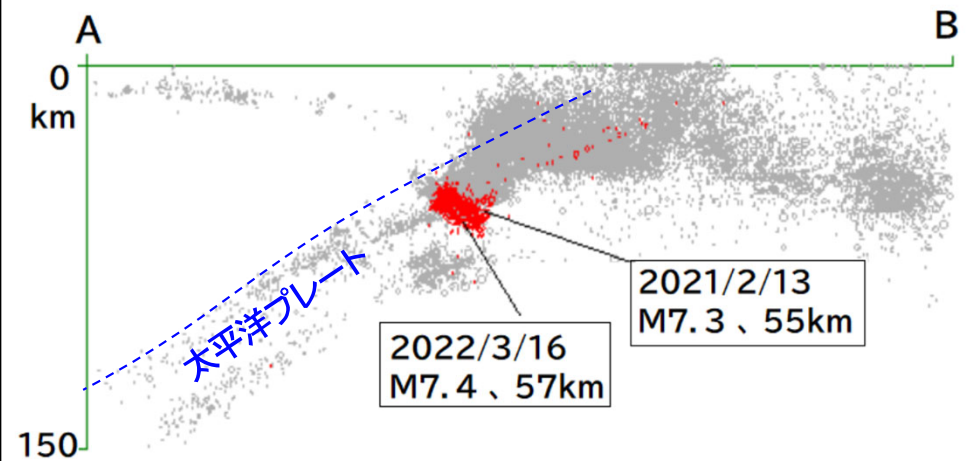
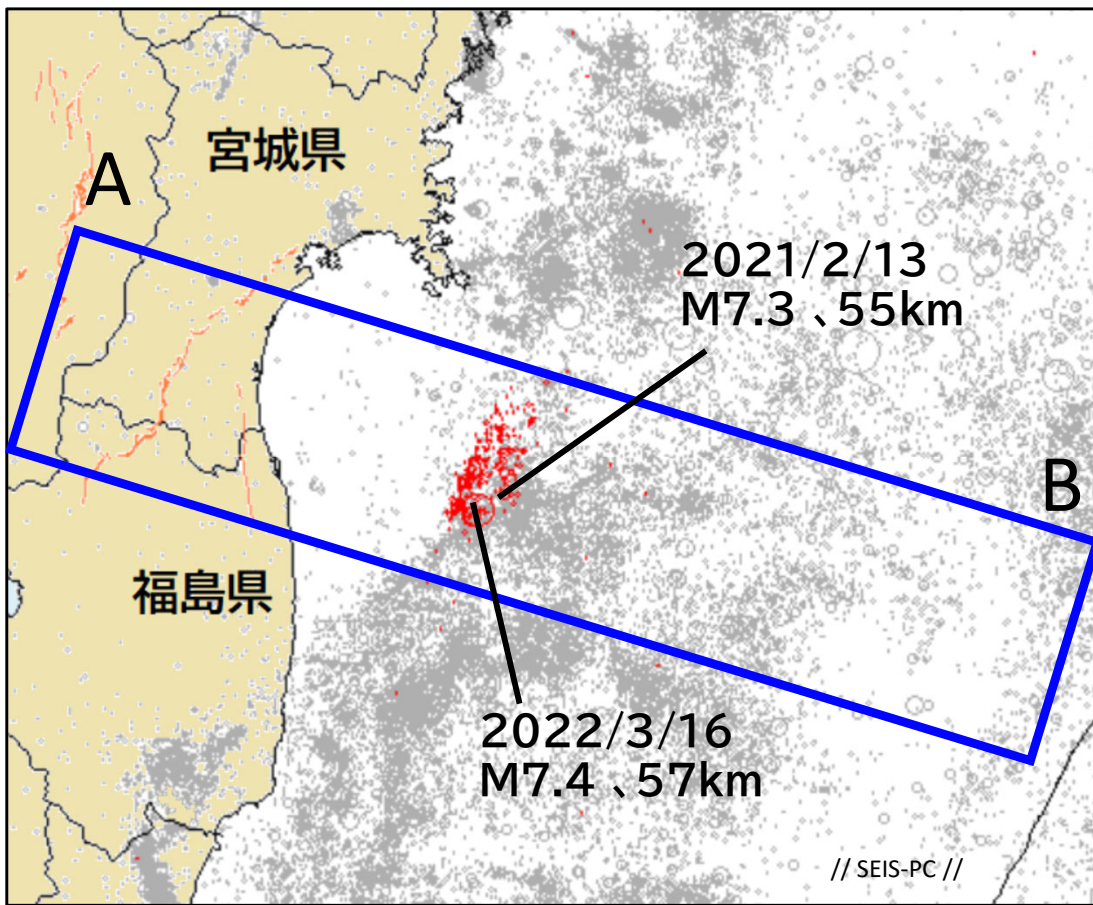


主な地震の発生状況 (図1,図2参照)

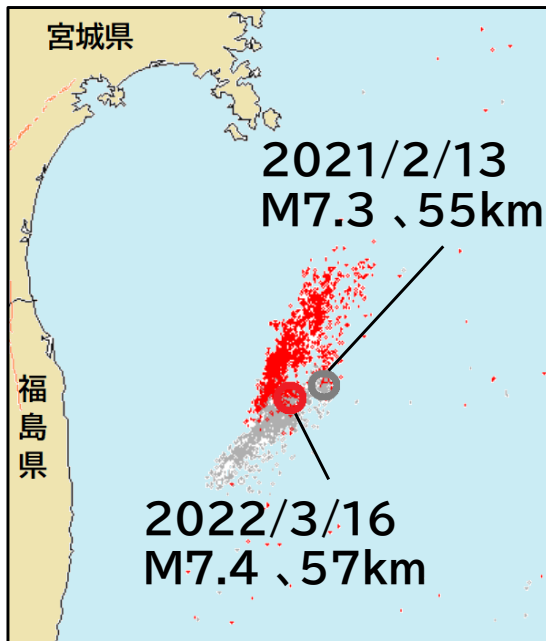
- この期間、震度1以上の地震が114回発生。福島県沖で最大震度6強、岩手県沖で最大震度5弱。 ■
- ①②16日23時36分に福島県沖で発生した地震(M7.4、深さ57km)により、宮城県登米市・蔵王町、福島県相馬市・南相馬市・国見町で震度6強を観測したほか、東北地方を中心に北海道から中国地方にかけて震度6弱～1を観測。この地震は、太平洋プレート内部で発生した逆断層型。この地震により、石巻港で最大0.3mの津波を観測するなど、宮城県及び福島県の沿岸で津波を観測。この2分前の23時34分にも同地域でM6.1、深さ57kmの地震が発生し、宮城県及び福島県で震度5弱を観測したほか、北海道から中部地方にかけて震度4～1を観測した(トピックス参照)。
- ③18日23時25分に岩手県沖で発生した地震(M5.6、深さ18km)により、岩手県野田村で震度5強を観測したほか、北海道～福島県にかけて震度5弱～1を観測。この地震は陸のプレート内で発生。
- ④19日04時04分に石垣島北西沖で発生した地震(M5.9、深さ171km)により、沖縄県竹富島で震度3を観測したほか、沖縄県と鹿児島県で震度2～1を観測。この地震は沈み込んだフィリピン海プレート内部で発生。

トピックス

- 福島県沖の地震 ■
- ・16日23時36分の2分前に発生した地震(M6.1)は、2分後のM7.4の地震を誘発したものと考えられる。
- ・16日の地震は、昨年2月に福島県沖で起きたM7.3(最大震度6強)の地震のごく近傍にある。
- ・昨年2月の地震と今回の地震の震源は、ほぼ同じ場所であり、同じ場所で短期間のうちにM7を超える地震が発生することは珍しい現象。
- ・しかし、今回より少し北側の宮城県沖では、狭い範囲で1933年にM7.1、1936年にM7.4、1937年にM7.1と短期間のうちにM7を超える地震が3回発生している。
- ・東日本大震災で大きくずれ動いたところの地震活動は比較的穏やかだが、それを取り囲むような場所で地震が起きやすい状態になっている。
- ・この周辺の地震活動は、これから10年、20年あるいはそれ以上続くおそれあり。
- ・福島県沿岸部では0.5秒以下の非常に短い周期の揺れが卓越している。このような短周期の揺れは小刻みで人が感じやすく、室内の家具や屋根瓦のほか、ブロック塀などに被害が出やすくなり、被害状況と合致している。
- ・福島県沖などは元々地震活動が活発で、2011年の巨大地震以降、更に地震活動が活発な場所ですので、まだまだ安心はできない。決して油断せず、日頃からの備えを進めてほしい。
- ・関連図表は次頁に示します。



1997年10月以降の震央分布図(左)と断面図(上)($M \geq 3.0$)
 赤丸: 2022年3月16日以降に発生した地震
 灰丸: 赤色の地震より前に発生した地震



20日までに最大震度1以上を観測した地震

最大震度	1	2	3	4	5弱以上	合計
回数	47	18	6	1	2	74

← 昨年2月と今回の地震の震央分布の比較
 共に3日間の発生状況を表示

赤: 今回3月16日の活動
 灰: 昨年2月13日の活動

昨年は断層の滑りが南西へ広がり、今回は北東へ広がっている。